

# 令和元年度主要施策の成果のあらまし

区は、大田区基本構想で掲げた将来像「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」を実現するため、令和元年7月に「おおた重点プログラム」を策定し、「地域力」と「国際都市」を中心に、子育て、保健・福祉、まちづくり、産業振興、地域力、環境など、あらゆる分野の施策を推進しています。ここでは、令和元年度の主要施策の取り組み内容のまとめをご案内するとともに、特に主要な事業について、いくつかの実施状況をご紹介します。

## 1 「おおた重点プログラム」における個別目標ごとの事業費（令和元年度決算額）等のまとめ

個別目標	主要施策数 (事業数)	取り組みの数	事業費 (令和元年度決算額)
1-1 未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします	17	51	34,502,038 千円
1-2 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります	20	42	7,158,410 千円
1-3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります	8	23	2,876,856 千円
2-1 水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します	22	56	7,820,612 千円
2-2 首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります	9	19	825,256 千円
2-3 ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します	16	36	1,801,760 千円
3-1 地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します	15	36	6,394,436 千円
3-2 私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です	5	9	2,786,655 千円
3-3 区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます	5	21	1,585,282 千円
合計	117	293	65,751,305 千円

※事業費については、個々の事業ごとに決算額を千円未満四捨五入し、集計しています。

【参考】  
未来プラン10年（平成30年度）  
主要施策数（主な事業数）：182  
取り組みの数：430

## 2 主要な事業の実施状況

### ●個別目標 1-1

未来を拓き地域を担う子どもを、みんなで育むまちにします

夏休み等の長期休暇中の子どもに対する支援として、社会福祉法人、民間事業者、地域活動団体等の協力による学習支援、昼食や体験機会の提供を行いました。また、地域の皆様からの寄付による「大田区子ども生活応援基金」を創設しました。

わかりやすく質の高い授業を通じた学力の定着や、児童・生徒の課題解決力向上を推進するため、小学校の少人数教室及び小・中学校の特別教室へ電子黒板581台、小学校全校へタブレット端末2,655台の追加配備を行いました。タブレット端末の配備数は約5.5人に1台となりました。また、安全・安心な教育環境を整備するため、小学校4校、中学校8校の体育館等へ空調設備を設置しました。



タブレット端末を活用した授業の様子

### ●個別目標 1-2

誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります

はねびよん健康ポイント事業を12月1日から開始しました。事業開始に当たり、歩行姿勢や食事バランスの測定会などを4回実施し、約2千人の参加者へ事業をPRしました。区内大学研究機関等と、参加者拡大や利用価値の向上、アプリからの取得データを活用した健康指導等についての検討を行いました。

国登録有形文化財の旧清明文庫を保存・活用した、全国初の「勝海舟記念館」を9月に開館し、年度末時点での来場者数は22,400人でした。カウントダウンイベントや内覧会、開館セレモニーは全国的に報道され、多くの方々が参加されました。



はねびよん健康ポイント事業 イメージ図

### ●個別目標 1-3

高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちをつくります

4月から老人いこいの家全館で、毎週月曜日から金曜日までの5日間、体操やヨガ、ダンス等の介護予防事業「元気アップ教室」を実施し、延べ41,751人の高齢者が参加しました。また、元気シニアプロジェクトのモデル地区の活動成果をまとめた「フレイル予防スタートブック」を作成し、自治会・町会、民生委員児童委員、地域シニア会等に配布しました。モデル地区での成果を参考にしながら、区内全域で各地域の特性に応じた取り組みを推進しました。

区が民間事業者の整備を支援し、認知症高齢者グループホーム3か所（定員合計63人）が開設されました。



フレイル予防スタートブック 食べポチェック表

●個別目標 2-1

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

洗足池駅周辺地区のさらなる魅力向上やにぎわいの創出、良好な住環境の維持保全、景観形成を進めていくため、地域住民等と意見交換を行い、地区まちづくりの方向性を示す「洗足池駅周辺地区まちづくり方針」を策定しました。

東京都が条例を改正し、自転車利用者等に対する損害賠償保険等への加入を義務化したことを踏まえ、増加する自転車事故や自転車の盗難を抑止するため、大田区自転車条例を改正し、ながら運転の禁止や自転車への施錠等を義務化しました。また、自転車を安全・安心に利用できるよう、利用マナー向上や走行環境の整備を推進しました。



「洗足池駅周辺地区まちづくり方針」



自転車条例ポスター

●個別目標 2-2

首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

羽田空港跡地第1ゾーン(第一期事業)について、事業者と連携して着実に整備を進め、まちの名称を「羽田イノベーションシティ」とするとともに、まち開きを令和2年7月とすることを決定しました。また、第1ゾーンが、国土交通省のスマートシティモデル事業の重点事業化促進プロジェクトに選定されました。

森ヶ崎公園サッカー場が3月末に完成しました。区内初のJFA公認ピッチサイズの人工芝サッカー場であり、雨天でも使用できるほか、240席分の屋根付き観客席も整備し、「する・みる・支える」スポーツの推進を図りました。



羽田イノベーションシティ

●個別目標 2-3

ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します

今後の産業振興施策の立案や実施に向け、区内ものづくり産業等の実態を把握するため、ものづくり産業等実態調査を行いました。調査にあたっては、アンケートに加え、先駆的な取り組みを行う区内企業へのインタビューを実施し、大田区ものづくり産業の現状と課題を示すとともに、課題への取り組み事例を紹介しました。

「大田のお土産100選」について、応募数61件の中から39点を選定し、4年間で合計115点の製品・商品(事業者)を表彰しました。表彰事業者を対象に本事業の全体評価アンケートを行った結果、満足度は92%となり、表彰事業者が売上増加等の効果を実感していることを確認しました。



区内ものづくり企業の高度な技術力から生まれた製品

●個別目標 3-1

地域力を活かし、人に優しいまちを区民主体で実現します

各特別出張所で、自治会・町会や青少年対策地区委員会の行事、地域防災活動など、18地域での主体的な取り組みを推進しました。また、区、社会福祉協議会等による大田区災害ボランティアセンター運営協議会を開催し、大田区災害ボランティアセンターの設置運営訓練を実施した他、大規模な災害による突発的な財政需要への備えとして、「防災対策基金」を創設しました。

犯罪を抑止し、安全・安心なまちをつくるため、33団体に対して街頭防犯カメラの設置(合計309台)を支援しました。また、青色回転灯車により、自転車盗難被害防止や特殊詐欺被害発生状況を考慮した広報活動を実施しました。



避難所開設訓練の様子



青色回転灯車

●個別目標 3-2

私たち区民が、良好な環境と経済活動が両立する持続可能なまちをつくる担い手です

呑川の水質を改善するため、東京都と流域自治体で呑川水質浄化対策研究会を開催し、対策の検討や実施、進捗状況の報告を行いました。4か年計画で実施してきた河床整正工事が完了したほか、高濃度酸素水浄化施設の整備を推進するなど、呑川の水質改善に向けた取り組みを進めました。

食品ロスの削減に向けて、区内事業者から供出される食品と食品を必要とする区内の福祉団体等とを繋ぐマッチング事業や、家庭の未利用食品を区施設に持ち寄り、地域の福祉施設等に寄附するフードドライブを実施しました。



呑川河床整正工事の様子

●個別目標 3-3

区は、効率的で活力ある区政を実現し、地域との連携・協働を進めます

おおた未来プラン10年(後期)の計画期間が終了したことから、後期5年間に於ける成果の検証や課題分析を行い、「めざす姿」の達成度を総合的に評価しました。評価結果については、3月に区ホームページ上で公表しました。

包括連携協定を締結している日本生命保険相互会社がOTAふれあいフェスタ会場のごみ拾い活動を実施し、居心地の良い会場づくりに協力いただきました。また、ごみ拾い活動をしながら会場全体をモニタリングする等、事業の魅力向上にも協力いただきました。



ごみ拾い活動で居心地のよい会場づくり貢献